

### 第3回香美市社会教育委員会議事録

日 時 令和5年3月20日（月）9時30分～

場 所 香美市立図書館かみーる

委 員 佐々木委員長、内田副委員長、近藤委員、永野委員、信崎委員、濱崎委員、福田委員、宮地委員

事務局 白川（教育長）、秋月（次長）、依光（公民館長）、黍原（生涯学習振興課長）、宇根（文化班長）、影山（スポーツ班長）

事務局

あらためましてよろしく申し上げます。それでは、これから令和4年度第3回香美市社会教育委員会の議事に入らせていただきます。引き続きよろしく申し上げます。

会の開会にあたり、香美市教育長の白川より一言ご挨拶を申し上げます。教育長、よろしく申し上げます。

（教育長 挨拶）

事務局

ありがとうございました。それではお配りした資料の確認をさせていただきたいと思えます。（確認中）まず初めに、本会議の成立についてご報告申し上げます。12名中8名の方にご出席いただいておりますので、定足数を満たしていることをご報告いたします。それでは香美市社会教育委員会運営規則第1条第3項の規定により、ここからの議事の進行は委員長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

佐々木委員長

はい、あらためまして皆さんおはようございます。早速市民グラウンドを見ていただいて、早くもああしたらいいこうしたらいいという声が上がりがつあります。工事が終わってこれからこの施設を使いながら育てていくところが非常に大事なところですので、皆さんから早速ありましたご意見をここで、一件一件でいいですね、質疑応答は。それでは述べさせていただきたいと思えます。

では私から。西側のテニスコートですが、非常によいですが、今度スポーツトラクタなどを置くということで、来年度以降改修を予定しているということですが、是非トイレという声が現地でございました。東側のトイレも整備していただいておりますが、結構距離がありますのでせつかく手洗いも出来たのにちょっとトイレが、ということですので、北側の道路には下水道も入っておりますのでいつでも繋ぐことができますので是非その辺もご検討いただきたいと思います。皆さん他に何かないでしょうか。気が付かれた点とか。こうしたらいいということがありましたら、自由に発言していただいて構いませんので、ご指名いたします。永野さん。

永野委員

グラウンドの土も入れ替えていただいて雨にも強くなっていいと思います。今後大会等で使っていただけるようになったらいいので、せっかくソフトボールで2面とれたりできるのなら観戦できる場所っていうのも考えないと、バックネット裏に東屋があるんですけど、やっぱり応援する人が来ても居場所がなかったりするし、そういったことも合わせて考えていかないと。大人の方も使うのでちゃんとした喫煙場所も構えることによって、そこでしか吸えないよとしないと、どこかしこで喫煙されてもしものことがあると困るので、喫煙場所を構えたらいいと感じました。せっかくあそこまできれいにしているのに、サービスと言っただけなんだから、市として使っていただくのにそういった部分も必要なのではと感じました。

佐々木委員長

ちなみに喫煙スペースは設けますか。

事務局

市の施設に（喫煙場所を）設けるとするのはなかなか。ちょっと考えてみます。

佐々木委員長

なお検討してみてください。

永野委員

最終的に土佐山田まつりで使うとなると余計にそれは。普段は置いておかなくていいですよ。そういう時だけでも置けるようにどこかを構えておいたらいいのかなと。

佐々木委員長

他に何かございませんか。

信崎委員

濱崎委員と一緒に見ていて、スロープにアールがないというか、角ばっていて通る方にとってはかなりきついなという話をしていました。補足をお願いします。

濱崎委員

ああいうものを作る時には実際に通ってみたらわかるじゃないですか。なぜカクカクにするんだろう。使う人の身になってないなとすごく感じました。せっかく車いすで入れるように作って下さっているにも関わらず、使えなかったらある意味がない。一つ一つ市民目線というか、車いすを使っていらっしゃる方の目線で、設計からしていかないと、本当の意味での市民に開かれた施設にはならないと強く感じました。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。なお、備品の設置の時とかに移動式のネットとかいろんなことを考えられますので、その角をまた検討していただくということでもよろしいですか。

他にはありませんか。

では、市民グラウンドの状況については一度ここで閉めます。議事の(2)今年度の事業実施状況について事務局から説明をお願いします。

#### 事務局

昨年度から教育振興基本計画の見直しにあたりアンケートの設問を考えていく中で、出てきた課題から今年度も事業の重点をどこに置くかということを経済局では考えて事業をしてきました。見直しの中で、「新たな参加を促すための学習環境づくり」「多様な市民層に合わせた学習環境づくり」「学びの成果を自分以外のために活かす人を増やす」という3点に注目した事業ができないだろうかということで計画をしていました。1番の新たな参加を促すための学習環境づくりということで、健康作りだったり、医療費削減を目的としたり、スポーツとしてウォーキングをしてきましたけれども、生涯学習課として探究というところをキーワードに、市内のいろんな場所を歩きながら知っていただきたいという目的で探究ウォーキングを4回計画しました。1回目は残念ながら雨で中止になりましたが、2回目には猪野々の吉井勇の歌碑を巡るウォーキング、3回目は永瀬ダムツアー、4回目は教育長から話がありました、かみーる周辺の伏原遺跡の当時の状況の講座と合わせたウォーキングを実施してきました、参加して下さった方にはおおむね好評でリピートして下さる方もぽつぽつ出てくるような状況です。

つづきまして、高知大学の出前公開講座を利用しまして3回の講座を実施しました。通常は大学さんの提供するメニューでということですが、龍河洞の研究しておられた先生がいらっしゃるしましてその御縁で龍河洞についての研究成果発表といいますか、講座と、洞窟内を歩きながら解説していただくという講座の計2回行っていただき、3回目は同じく高知大学の先生ですが吉井勇さんとのつながりのあった「パンの会」を主催されていた作家さんを研究されている先生に吉井勇さんとのつながりを絡めたお話をさせていただきました。こちらはなかなか敷居が高かったようで、ウォーキングと比べると集まりが悪かったですが、参加者からはとても興味深かったというお声をいただいております。

次に、少年育成センターが実施している社会見学に親子で行くことができました。それからピットリタイムマラソン大会ですが、毎年やっておりましたが、今年は安全面もありまして親子で手をつないでゴールしましょうというルールに変えて第1回としました。その結果、普段あまり参加のないお父さんに参加いただくことができまして、皆さんに楽しく走っていただけた様子がありましたので、引き続きこの形で続けていって、できれば夫婦そろってとか男性の方の参加も増やしていきたいと思っています。

つづきまして、先程ご覧いただいた市民グラウンドの改修工事になります。テニスコートをフットサルでもご利用いただける多目的コートにし、少しでもいろんな方に使っていただけることを目指して4月に供用開始です。今年度導入の予約システムでも使えるようになりますので、合わせて他の施設も新しい方に使っていただけるようにしていきたいと思っています。この予約システムを導入しまして、利用登録団体が70団体増えて356団体となっています。新しくお一人や二人で(チームではなく)、空いてるのを見たので使いたいです、という問い合わせもあるようになっており、少しずつかもしれないですが、初めて使ってくださいの方が増えているようには感じます。

次に、公民館事業になります。こちらも新たな参加を促すということで、ディスコダンスの講座を公民館でされている先生と共同して、公民館でのディスコサークルだったり、気楽に始める「終活ノートをつくろう」、心地よく暮らすための「お片付け&生前整理」、アカザの杖づくりを実施しました。また、美良布地区の公民館事業では、今年度はレザークラフト、スラックライン、夏のダムツアー、カポエイラ、クリスマスリース作り、木のスプーン作りなど、今までなかったような新しい事業を取り入れまして、参加された方は皆さん楽しく参加できたと好評を得ています。

次に、聖建築設計事務所の方が、事務所にギャラリーを併設されていまして、その方が昨年からの県の芸術祭の補助金をもらって始めた事業になりますが、聖建築設計事務所と美術館とギャラリーぐらんまさんで三角形を作って、街中を歩きながらアートに触れていただくという企画を、今年度も美術館と一緒にやっております。コラボメニューと一緒に作って下さる喫茶店もあり、アンケートでもまた来たいとおっしゃってくださる方が増えていますので、少しずつ認知度も上がって歩いて下さる方が増えているように感じています。

次は、地域の課題解決につながる企画ということで、高知工科大学CSLさんとの連携で、地域での貢献活動として明治地区公民館長の石川さんが計画をして一緒に進めて下さっています。以前に計画を話して下さったことがありましたが、コスモスの植栽だったり、今年は七夕祭りをドローンで撮影して、その映像を公民館で流すようなことを計画していただいています。また、舟入小学校区で地域のオンちゃん会というのを立ち上げて協力して、一緒に小学校でのイベントを学校と地域と一緒にやっていきたいと思いますというのを計画してくれています。

2番の「多様な市民層に合わせた学習環境づくり」ですが、事業としてはあげられてはいませんが、11月に開館したかみーるを最大限に活用して事業をしていきたいと考えております。工科大学さんに学生ボランティアの募集にこの2年くらい行かせていただいて、学生さんがかみーるの館内案内だったり、消毒器や本の自動貸出機などの使い方を紹介する動画を作ってくれて、それを館内のサイネージで流したり、印刷してマニュアルにしたりしています。また新着本の案内動画を作成してくださっています。協力して下さるボランティアさんたちとともに一緒にかみーるを盛りあげていきたいと考えているところです。

次に、3番として「学びの成果を自分以外のために活かす人を増やす」ですが、探究活動の成果発表の場として、今年度3年ぶりによってたかって生涯学習フォーラムを開催出来ました。中庭で飲食OKということにしてくださいまして、今年はメイン会場に約1,040人の参加をいただきました。美術館のワークショップが46名、図書館のブックリユースと映画上映会で約130名ほどの参加がありました。いろんな講座や展示、体験コーナー、ステージ発表というところでたくさんの方がそれぞれの成果を発表してくださいました。

次に、地域のネットワークを活用ということで、森と緑の会と農林課、地区公民館と一緒に木育をテーマに森林の重要性とものづくり体験ということで人気のあるスプーン作り体験を公民館で実施しました。

それから、エコクラブさんが地球温暖化防止推進員さんと森と緑の会、公民館と一緒に木材のCO2削減効果の講義と楽器制作と紙漉き体験を実施しております。

次に、同じく地域のネットワークを活用ということで、じんけんサークル「まごころ」

を実施しております。これは年 6 回ずっとやっているものではありませんが、今年は外国人の方に講師に来ていただいて、外国の文化や生活習慣についてお話しいただき、受けて下さった方には好評をいただいております。引き続きいろんな視点で講座を考えて、できれば子どもさんたちに来てもらえるような講座に育てていきたいと思っていますところでは。

次に、スポーツ研修会として土佐モルック愛好会の方を講師に招いてモルックの教室と、3/10 にスポーツ少年団連絡協議会主催で「スポーツを通じて子どもの成長をどう支援していくか」ということで、香南市でよく新聞に女子レスリングで有名な 3 姉妹の櫻井選手を育てているお母様がスポーツをする子どもの親として、指導者の妻として、そのような視点でお話をして下さいました。

今年度の事業としましては、主なものといえますか、新しい視点に沿ったものをピックアップしてご説明させていただきました。コロナ禍ではありましたが、今年は何とか工夫してほとんどの事業を実施することができました。今年の反省を生かして来年度以降、計画を練り直しながら前に進めていきたいと思っております。以上です。

佐々木委員長

はい、事務局から説明をいただきました。令和 4 年度の生涯学習課の取り組みについて何かご質問はございませんでしょうか。ちょっとよろしいですか。

公共施設の予約システムですが、これは教育委員会の所管する施設すべてを網羅していますか。例えば、中央公民館であるとか。

事務局

使えるようにはなっていますが、一番活用しているのが体育施設になります。

佐々木委員長

土佐山田スタジアムとか。

事務局

施設によっては運用方法が違って、例えば吉野は芝生の関係で養生期間があって予約を入れてもらっても使えないなどありますので、施設ごとに使用の仕方が異なる感じです。

佐々木委員長

それは統一されてクラウドでやるわけではないですか。

事務局

システムは同じですが、使い方がそれぞれ違う・・・

佐々木委員長

入り口はひとつ？でいけるわけですね。当然土佐山田グラウンド、テニスコート、それから市民グラウンドも含まれているということですね。

福田委員

ここに書いています。学校も借りれるのか。

事務局

市民の方でしたら、学校も借りられます。

佐々木委員長

夜間によく、ママさんバレーとかで学校でやってますよね。そういうのもいけるわけですよ。

事務局

はい。個人で借りれるという意識がない方が多いですが。

事務局

雨の日に子どもさんと遊ぶような目的で借りて下さる方もいらっしゃいます。

佐々木委員長

人数制限もないので少人数でも大丈夫ですか。

内田副委員長

学校は借りられるんですよ。これは社会教育法に書いてあるんですよ。学校施設を市民のために利用しやすいように教育委員会は努力しなきゃいけないと書いてあります。70年前の法律ですけれども、社会教育法に書いてあるので、学校を市民が使うのは基本的には当たり前なんですけど、歴史的な経過もあって。でも今、空き教室も増えてきたり、こういうシステムも導入されてくるので、学校も使うというかたちでいいと思うんですけどね。学校のほうが嫌がってたんですよ、今までは。なかなかハードルはあるんですけども。使うのは全然問題ない。

福田委員

体育館と校庭なんですよ。教室は借りれない。

事務局

教室も校長先生に交渉して頂ければ。

内田副委員長

本当はそんな限定はないんですけどね。鍵の管理とかいろいろ制約が。学校教育に支障がない範囲で、と書いてあるので支障があると思われたらもう。

佐々木委員長

なかなか多いですね。施設としては。ほぼ網羅している。

はい、他に何かご質問はございませんか。

#### 宮地委員

エコクラブでやった事業で、縦型木琴を今年から香美市の間伐材を使って作っています。これは10分くらいで作れます。片地とか楠目、大栃、大宮とか、今年は山田小学校も含めて5年生に間伐の必要性だとか、森と、自分たちが一家が出すのには？1600本の木を育てないと自分たちの出した二酸化炭素が元に戻らないとか、そういう身近な話もしながら45分授業をやらせてもらっています。

#### 佐々木委員

はい、ありがとうございます。

#### 内田副委員長

ひとついいですか。今ご説明いただいてとてもよくわかったんですけど、こういう整理の仕方もあると思います。つまり、主催事業とそれから主催ではないが支援している事業というのがありますよね。つまり、ウォーキングは主催事業ですが、アートリンクは美術館が関わっているけれども主催ではないですよ。お伝えしたいのは、主催の場合にはこちらがリードしてこちらにお金があってやっていくわけですが、支援の部分にこれからどうやって関わっていくか、どういう形で支援をして、あるいはどういう役割がこっちにあって、というような、全部何でもかんでも主催じゃなくて、市民のグループと連携する、他の団体と連携する、というその辺の仕事の仕方みたいなことと、お金のことと、仕組みですよ。そういうのがこれからより課題になってくると思うわけです。そういう意味で、主催だけじゃなくて今日の報告の中ではいろんな所と連携しながらやっていく様子が示されているので、すごくいい方向に向かっているんだろうなと思って伺っていました。そのサビ分けですよ。

#### 福田委員

それと関連して。僕もずっと思っていたんですが、2番なんですよ。1番はみんなが参加できるものを作って、どんどん生涯学習に引っ張り込もうはわかりますが、1番と2番の関連というか、ターゲットをどこに置いて、どういう年齢層の方をどう・・・きたいのか、どうやれば生涯学習というものがみんなに浸透していくのか、アートもあればスポーツもあるし、文化・学術的なものもあって、どこまでやるのかと実は思っていて、ゴールをどこに置くのかなど。ゴールはないと思うけれど、市民のうちの何パーセントがこんなことをしてくれたらうちは生涯学習のまちと言えますとか、なんかこうビルドビルドビルドでやっていくと多分しんどくなってくるし、スクラップするものはしないといけないし。今の先生の話だと支援という形があるのであれば、最近目にしませんか今これだけのサークルが香美市にありますと言って、さっきのやつも借りたいところが三百幾つあるとか、これは本当のサークルかどうか知らないが、前にもらった冊子には踊りのサークルとか歌のサークルとか何十とあったじゃないですか。そこに公民館を貸すなどして支援はしているのだろうが、そういった人たちが自分たちで勝手にやってくれているのも生涯学習の一

環なのでそれはそれとして、どういうゴールを描くのかというのが、べたに言うと、よってたかって教育のまちで探究のまちで市民一人一人が何でも探究しながら人と関わりながら生きていけたらいいよね、みたいなどころはあるかもしれないが、妙に具体がない。具体がなかったらこれもいいねあれもいいねになってしまうのですが、ちょっとその辺りは戦略的に考えていってもいいのかなと思っていて、ウォーキングなんかも、実は昨日試合が終わって帰っていたらいっぱい人が歩いてきているので「今日何があったんだろう」と、時間帯も17時を過ぎていたので、昼間なら赤いリュックを背負って歩いている団体がありますが、「違うぞ、この団体はそれじゃない」と思い、何事だろうと思って見たことでした。その人たちでも、参加してもらうための仕掛けとして、どのくらいの年齢層の人を取り込みたいからこういうイベントにしますとか、逆にすごく影響力のある人たちを取り込んでその人たちが一回OKしてくれたらまた広がる・・・そういうのも考えてみたら面白いのかなと。単純にいろいろやって大変じゃないですか。休みに日には出てこないといけないし。自分も歩いてみないといけないし。そういうのもあって、その辺りを上手に戦略的に組んでいって、今年はこのことが伸びましたよ、と言えるようになってきたらいいのにな、と思いながら。そのためにはどこまでやるのか、ゴールみたいなどころは要と思う。聞いていて感じました。先生の支援という言葉でいけば、最初の頃、どうしたことかこのサークルの数！とみんなが驚くくらいサークルの数が香美市にはあるんですよ。「これはすごい、もう自分たちでやってるじゃないか」とも思っていたし、上手にそれらをパッケージにして目標を決めてどんどん情報発信していって、知らないうちにみんなが何かしているみたいなのがゴールだったらそういうのもひとつでしょうし。そういうのをちょっと感じながら聞いていました。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。

永野委員

先程から支援というお話を聞いてふと思ったことは、近藤くんにも話していたが、せっかく近藤くんになかみの代表として入ってもらっているのだから、かみめぐりという事業をやっている、香美市の中でいろんなことをしている方が「これを広めたいからみんな来ませんか」というのをやっている。僕も去年やろうとして雨天のためできなかったが、それも生涯学習として支援をしていけば人の発掘もできるし、対象を高知県内に広げて参加人数を集めていますが、大体一つの講座に最低でも20人以上・・・受け入れをしようとしているところなので、そうすると幅広い世代、いざなぎ流の部分も同じようにかみめぐりでも20人くらいの枠でやっていたので、せっかく（近藤さんに）委員として入っているのだから、移住の枠でやっているけど、香美市の部屋を使ってせっかくやっているのだから、それに教育委員会もしっかり乗っかって生涯として考えていくのはありなのかなと。そうするとこれだけじゃなくて協賛でもやって成果を得て、香美市のいいところをアピールできていますよとしていくと、もっと幅に広がりが出てくると思います。同じことをあっちもこっちもやっているではなくて、いなかみさんに移住促進でやるならそちらにどんとお任せしたほうが、さっきも言ったように日曜日まで出てきたり・・・考えやす



くなるのかなと感じました。

福田委員

そうなんです、市役所は縦割りなんです。横串を通さないといけない。今ここで見つけた「かみめぐ」というパンフレットですが、塩の道や打ち刃物体験も出ているし、ここにも生涯教育がいっぱい入っている、谷秦山の墓や野中神社も全部あるわけですよ。これは商工観光課がやっている。だから商工観光課でやったり、定住推進課でやったり、生涯学習でやったり、他にもいろいろあると思います。横串的な何かを上手にやれば、本当はもっとやっているし、やっていることをきれいにアピールできるし、誰かに任せることもできる。コントロールする側でもいいわけじゃないですか。もったいないと思う。上手にまとめたらいいと思います。

事務局

近藤さん、こっちからお願いするようなことも可能な雰囲気ですか。

近藤委員

そうですね、主体になってくれる人が必要になるので、そこを相談しながらやりましょうということではできると思います。

佐々木委員長

今は定住推進課の所管になっている？

近藤委員

そうですね。ただ、プログラム数が今は予算の関係で制限しているところがあり、もっと数が増やせることになればもっと受け入れることも出来ますし、横串を通すという話も自分たちも必要だと思っていて、でも誰かがちょっとお節介をしないとなかなか動かなくて、図書館がボランティアを募集していることも最近まで知らなくて、たまたま知ったときに移住者の住宅にいる人がたまたま本が好きで「やってみませんか」というと興味があるとのことで、実際につながったかどうかはわかりませんが、そんな風にちょっと声掛けをしたら動くという人もいるということがわかったので、まさに3番とか、かみめぐりも対象になるし、吉岡先生からもよってたかってフォーラムにかみめぐりで出ませんかとお誘いいただいたこともありましたが忙しくて今回は難しかったのですが、また連携できる所は本当にあると思うので。香美市にこんな人がいるんだなというのは、かみめぐり側としてもいろいろ見たりして「この人面白い」と見つけようとはしているから、それが表に出てきてないだけかなというところもあるので、上手く使って進めていけたらいいなと思います。

事務局

私がかみめぐりのパンフレットを見たときに、同じことをやっているじゃないか、と教育長にも話しました。これだったらうちがやる必要はないんじゃないか、と話をしたとこ

ろなので、コラボできるのか、参加費が意外と高いのが気にはなりましたが、そういうことも含んでできるのであれば一緒にやった方がいいと思います。よろしくお願いします。

内田副委員長

今、近藤さんが「ちょっとお節介する人が必要だ」とおっしゃいましたよね。そうなんですよね。その間をつなぐ人が必要なんですけど、そういう人こそ生涯学習課と出合う必要があって、実際動くところは他にあって、こっちに生涯学習課があって、それで間にちょっとお世話をする人がいるという。むしろその「ちょっとお世話をする人」を相手に生涯学習の仕組みだとか、こちらからの話をしてあげれば、後は中間の「お節介の人たち」が勝手に動くわけですよ。

だから、今までは社会教育ではリーダー養成という言葉を使ってきましたが、青年、女性、PTAに限らず、もっともっと地域にはお節介の人たちがいるわけで、そこに向けて情報を流すというか、こちらの意図を汲んでもらうような仕組みが必要なんだろうと思います。学校支援本部なんかはそうやってリーダー養成をしているわけですが、もっともっと医療の世界にもいるし、スポーツの世界にもいるし、福祉の世界にもいるし、観光の世界にもいるし、そういう意味でお節介の人とどう出会うかというのが我々の仕事なんじゃないかと思います。

永野委員

例えば濱崎さんだったら学童の事務局長をされているわけなので、参加人数が足りなければ学童には子どもと親が来ているので、学校にお願いするより、直接学童さんにお手伝いしてくれる人はいないかというお願いもできなくはないと思います。ここに支援員がいて、その支援員が手伝いたいと思えば、もっと子どもと近い人間、保護者とも近い人間をと言ったら・・・普通のイベントに行ってもみんなに声掛けをしている人なので、そういう方に謝礼でも払ってやってもらうのもひとつ、委員さんがいっぱい集まってくれているので、この方々を使ってやったほうがいくらかやりやすい。近藤さんがもっているもの、濱崎さんがもっているものいっぱいあるので、それこそお節介の塊の方がいらっしゃるので使えるものは使った方がいいと思いました。

濱崎委員

つなぐというのが一番大事な部分だと思うので、永野委員がおっしゃったようにお節介、人と人をつなぐということが社会教育、生涯学習では大切な、コーディネーターと名前をつけるのかはわかりませんが、お節介がすごく大事です。

内田副委員長

以前は職員がそれをやっていたんですが、要するに行政の体力がどんどん落ちてきてどうしようもなくなって、勝手にやってくださいってなっているんだけど、でもそこにつなぐ人が必要だというのが今の大きな流れで、それをコーディネーターとかいろいろ言ってますけど、媒介者ですよ。そういう人を育てよう、そういう世界。すみません割り込んで。

#### 信崎委員

3 番のチュニジアの方をお招きして人権学習をされたという話。香美市はグローバルな視点が弱いと思います。若い世代、外国語教育が盛んに求められていて、香美市は他市にないくらいの ALT も導入していただいで進めているところです。

昨年、ALT の方たちがせっかく自分たちが子どもたちに触れあっているのに、自分たちの文化を伝えたいという思いが強くて、土曜日にボランティアでやろうというのを計画したんですが、あいにくコロナで頓挫してしまいました。これをリードしているのが研究所です。大変でしたが、こういうところにもできれば一緒にコラボしていただいで、文化面と言うと・・・ありますし、生活文化もありますし、クリスマスの行事なんかも各国はどういうふうにやっているのか、行事食にどんなものがあるかなどをやりたいねと企画もしていたようで・・・公民館では英語教室とかやってくさっていると思いますが、何月はそういうのを入れるとか、・・・できるんじゃないかと・・・なくなりますし、・・・ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。せっかく工科大もあつて外国の方々がたくさんおいでる町なので、そういう部分を上手く活かしながら・・・

#### 佐々木委員長

はい、ありがとうございます。時間の都合もありますのでここで一旦区切りまして、(3) 来年度事業について事務局から説明をお願いします。

#### 事務局

今年度好評をいただいでいるウォーキングや、身近なところで参加できる講座というところを引き続き継続していきませんが、依光市長になってから香美市全体の主要事業を資料にまとめてホームページ等でアップしていきまして、こちらは来年度用に作ったもののうち、生涯学習が主管の部分だけを抜粋してあります。ホームページは 4 年度分になっておりますので、このリンクから飛んでもまだ 4 年度分が出てあります。本年度分につきましては 4 月 1 日以降（アップされる）の予定です。

社会教育施設予約システムの活用促進ですが、施設の改修も終わりグラウンド、多目的コート（テニスコート、フットサルコート）が使えるようになります。少し増えまして、引き続き新しい方に知っていただけるように周知という部分を頑張る必要があると考えてあります。

次のページは、社会教育施設である宝町集会所、黒土集会所、中央公民館、美術館、佐岡コミュニティセンター、吉井勇記念館・溪鬼荘、香北グラウンドの LED 化を合わせてしていく予定になっています。水銀灯、蛍光灯の生産終了等もあり、また高騰する電気代の軽減、施設から排出される CO2 削減などを目的として実施します。美術館は展覧会を調整してこの期間に展覧会が入らないようにしたり、あとの所は少しの間休館だったり、使えない時期が出てくるとは思ひますが、可能な限り皆さんの利用に影響がないように工期計画をして進めてまいります。

次は、文化財説明板設置計画になってあります。現在、香美市内の指定及び未指定文化財、国登録文化財の説明板は、老朽化したものもありますし、それぞれの時期にそれぞれ

に設置されたものになりますので、素材やデザインの統一感がない状態になっております。まちづくり応援基金事業を活用させていただいて、5 年計画でデザインを統一した説明板を順次設置していきたいと考えております。5 年度は、下に示した山田堰、神母神社楠の大木、野中兼山別邸跡、谷秦山邸跡、野中神社、堰留神社の 6 カ所に設置を計画しております。少しだけデザインを統一して、説明の内容についてもこれからになりますが、写真も増やして分かりやすくしていけたらと思っております。

最後になりますが、吉井勇記念館の 20 周年記念事業です。4 月 1 日から「吉井勇と棟方志功」という周年事業としての企画展になります。吉井勇の歌を棟方志功が版画にしたものが 31 点やってまいります。皆様も是非見に行ってくださいと思います。この企画展を契機として、市民の方にも知っていただけて来ていただけるように PR をしていきたいと思っております。

最後に吉井勇記念館の企画展と、中央公民館主催事業でかみーる内つながる一むで開催するコンサートのチラシを添付しておりますので、お時間がありましたらよろしくお願ひします。

つながる一むを活用して事前にいろんな事業をたくさん入れると、市民の方から使いたいときに空いていないというお声もいただいておりますので、使い方が難しいところではありますが、ここも活発に使っていただけるように皆さんへ周知と、たくさんの方がここへ来てくれていますので、見に来た方が入れるような企画を計画していきたいと考えております。来年度主要事業については以上になります。旧年度からの引き続きの事業については載せていませんが、以上になります。

佐々木委員長

はい、ありがとうございました。何かご質問はありますか。

宮地委員

夏休み子ども教室的な事業を 7 月 30 日にここで時久先生と計画しています。夏休みの子どもの宿題をしたり、自分で染めたうちわだとか、近藤さんのかみめぐりに関わらせてもらっていて、一番高いのはコーヒーの一人一万円があるんですが、こういう事業をする時に材料代とか講師の謝金を補助して頂いたら参加者の負担も減りますので、財政の関係もあるとは思いますが・・・近藤さんのはすごく盛り上がり今年も新たな方も参加しそうですね。私も行きたい、野草茶とか、そばづくりとか、かるかんづくりとか、パン作りとか、本当にコースがたくさんあって。大体半分くらいが高知市で、香美市が 35% くらいかな。

近藤委員

アンケート上はまずまず半分くらいはいらっしやいました。

宮地委員

他のところからたくさん来て、結局 PR がよくできている。ちなみに私は一貫張りをやりましたが、非常に好評でキャンセル待ちが 20 人以上いて、今年はちょっと増やさないと

けないかなと。近藤さんがやっている事業は、香美市をPRする意味で、観光にも関わっているし資源のPRにもなるし、いろんな面で貢献していますね。

佐々木委員長

ありがとうございました。また定住推進課とか横の連携も補助事業をもらうのであれば必要だと思いますので、その辺も検討をよろしくお願いします。

(4) 次期教育振興基本計画 骨子案について、ちょっと簡単に。

事務局

まずアンケートの結果を簡単に説明させていただきます。アンケートは昨年実施したものです。住民調査、保護者調査、児童生徒（小中学生）調査に分けて行っています。

住民調査は18歳以上の市民2,000人を対象にしています。保護者調査は小学校1年生、5年生と中学校2年生の保護者約500人を対象にしています。今回、小中学生の子どもさんの部分は省略させていただいていますが、小学校4年生から中学校3年生の約1,000人をピックアップして、昨年10月から11月にかけて実施したものです。有効回収率は住民調査が約42%、保護者調査が51%になっていて、インターネットにして気軽にさせていただけるようにした分、前回から比べて回収率があまり上がっていないところがあります。

次のページをご覧くださいと、回答者はおおむね女性で50代以上、60代から70代の方が過半数になっております。生涯学習については、この1年にどのような方法で学習したかということ、テレビやラジオ、インターネットの利用が4割を超えています。学習をしたことがない、という理由では「きっかけがない」という方が多く、次に「仕事が忙しい」、「理由が特にない」という方も一定いらっしゃいます。今後やってみたい学習では、「家庭で役立つもの（ガーデニング、料理など）」、「健康に関するもの」、「趣味・文化・芸術に関するもの」というところが上位に出てきておりました。

次に、生涯学習の満足度と重要度でいいますと、図書館サービスで満足～まあ満足が約3割ですが、それ以外の部分では約1割台。重要度でいいますと、非常に重要～重要な部分が、いずれの分野も5割から6割程度となっております。図書館サービスの充実は、前回調査から17.4%上回っています。こういう建物が出来たことで目に見えて上がってきたのかなというところです。

次は、インターネットの利用についてですが、これまで調査していなかったのが比較できませんが、オンラインミーティングツール、YouTube、SNSを概ね使っている方は61%、利用していない方はそれぞれ3割を超えています。SNSは家族や友人、仕事関係での連絡・交流が主になっている傾向があるようです。こういったツールを使つての講座への参加というところでは、「関心がないので参加しない」が最も多く34.9%、「参加してみたい」方は30.2%、「参加する必要がない」方は27.9%となっています。

この後、それぞれの市内の施設について調査しています。中央公民館と地区公民館については「利用したことがある」のは60%近く、「利用したことがない」方を超えていました。また、その方の利用目的となると、「施設で行われた後援会、講座への参加」「ホールでのイベント」「会合や会議で利用」した方が多くいらっしゃいました。

次に、アンパンマンミュージアム、美術館、吉井勇記念館を知っていますか、利用して

いますかという問いに対し、アンパンマンと美術館についてはほとんどの方が知って下さっていて利用もしていただいていたようですが、吉井勇記念館については「利用したことがある」方は2割以下であり市民の方においでいただけてないという現状がありました。

次に、体育施設ですが、公民館に比べると「過去5年間に利用したことがある」方が1割以下になっており、「知っているが利用したことがない」、利用したことがない方が大半を占めているのが現状となっています。施設の予約としては、土佐山田体育館など非常に予約を取りにくい施設にはなっていますが、広く使っていただけていないのかなというところ です。

スポーツについては、1回30分以上の軽く汗をかく運動を「週1回程度」以上が39.3%で、「年2・3回程度」までを合わせても約5割となっておりました。興味のある運動としては、「簡単な体操」だったり「ウォーキング」に関心が集まっている状況でした。

次に、文化財について知っていますか、行ったことがありますかという問いでは、龍河洞や秦山墓所、山田堰、八王子宮、轟の滝とよく知られた場所で、認知度が高くなっている現状がありました。これを参考に今後の事業の進め方を考えていきたいと思えます。また、香美市のシンボルとして「龍河洞や轟の滝に代表される名勝天然記念物」「土佐打刃物の伝統と技術」「フラフ」も大事にしていきたいと考えていただいている状況です。

次に、図書館についてです。この調査が開館の前後だったと思いますが、「これまで利用したことがない」方が最も多く、最近では来館者数が6倍程度に増えているのですが、この時点では旧の施設だったこともあるかもしれないですが、行ったことがないという方が多く出る結果にはなりました。今は図書館には来ていただいています、図書の貸出し冊数を今後もっと伸ばしていきたいので、図書館でサービスを考えているところです。図書館に望む役割としては、「たくさんの図書がある」ことを重要と考える方が多く見受けられました。また「子どもの読書活動の推進」だったり「レファレンスサービス（調べ物に対する支援）」というところも重要に思っています。

図書館で充実すべきサービスとしては、「イベントの充実」が高くなっています。

次に、保護者調査の部分を抜粋しております。小中学生の保護者ということで、30代40代の方がほとんど、中でも女性の方に回答をいただいていたようです。

次にポートフォリオを見ていただくと、生涯学習の部分としては、図書館サービスの充実度は「取組検討エリア」という重要度としては低い満足度が高く出てきた部分に該当しており、図書館サービスについてはおおむね満足していただいていると読みとれます。小中学校の保護者さんなので、教育面を特に重要と考え、力を入れていただきたいというところは仕方のないところではありますが、左下の「取組強化エリア」は満足度は低く重要度も低いエリアに生涯学習の部分が概ねこちらに。他の項目との優先順位を考慮しながら満足度を向上させていくべきということで、若い方にはあまり関心を持っていただけてないのかなというところが出てきておりました。アンケートの結果としては以上です。

アンケートを進めるうえで考えてきたことですが、全体の柱は大きくは変わっておりません。学ぶ、つながる、未来を創るというところで、若干文言が変更になったところがありますが、大きくは変更になっておりません。生涯学習の部分の大きな事業としては、未来を創るという部分にはなりますが、黄色い部分が骨子案としてこれからこうしていこうと考えている部分です。グレーの部分は対策名以降については、それを受けて今後もう少し

し練り上げていかないといけない部分になります。

<視点 3>の未来を創るの中の<基本的方向 (3)>の生涯を通した豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実といった部分で、①多様化するニーズに対応した生涯学習機会の提供、②スポーツを通じた健康増進、③公民館活動の新たなニーズへの対応と充実、④人・文化・世代・地域をつなぐ図書館、⑤市民と行政が一体となって取り組む人権教育というところを<施策の柱>として教育振興基本計画を練り上げていきたいと考えております。他の部分でも、いろんな課と連携しながらやる部分もありますが、今回は生涯学習に関わるこちらの部分について今後の方向性だったり不足している部分をご指摘いただけるとありがたいと思います。よろしく申し上げます。

佐々木委員長

ありがとうございました。次期の教育振興基本計画は何年度に策定予定ですか。

事務局

来年度、5年度中に計画を立てまして、6年度からの5か年を計画していきます。

佐々木委員長

R6からの5か年間。

はい、説明をいただきました。何かご質問は。もう生涯学習振興課もこれに書いているように連携、横のつながり、市民への周知とか、ずっとやってはきているのですが、やはり何か浸透しないという。特に若い世代と言われますが、若い世代というのは働くのに精一杯なんですよ。そこにはかにアピールしていくかということになってくるので、なかなか時間が取れない、子どもが生まれたら子育てが大変になってくるので、その辺をいかにクリアしていくかというのが非常に大きい課題になるかと思います。先程もお話ししましたが、永野さんからもご意見をいただいたのですが、いなかみさんとかが現在は定住推進課の所管で動かれている、そこをいかに広げていくか、そこは単独事業しかなくなってくるとは思いますけれど、その辺も含めて市の中で協議を進めていただきたいと思います。

その他になりますが、皆さんの中でご意見を頂けたらと思います。

内田副委員長

今のアンケートのことでいろいろご意見があるんじゃないかと思いますが、学習という言葉で言いますが、学習の理解というのが、皆さんがどうなっているのかというところがすごく大事、大きな問題だと思います。どうも生涯学習と言ってしまうと、非常に個人の作業であってしかも個人で日常生活や地域とはかけ離れたものだという理解が多いです。でも、学習というのは正に日常生活のものであり地域のものであり、そして個人作業ではないのです。人と人との関わりが学習なのですが、どうもアンケートを取ると学習というものの理解が非常に薄っぺらいというか、ある種個人作業のことなんです。そういう意味では学習の質をどう高めていくかということが大事で、言葉を変えると、心を揺さぶる体験というのはすべて学習なんだと言ってしまふことが必要で、心を揺さぶる体験というの

はいっぱいあるわけです。いい事もあれば困ったこともあるし、教育長のごあいさつにもあったように、昨日の皆さんは貪欲に学びたいわけです。あれをやりたい、これをやりたいと。まだ行けてないから遅くなくても行きたい、とか。そういう揺さぶる体験こそが学習だし、そういう学習をもっと増やしていかないといけない。利用者が少ないというのがありますが、やっぱりそれは人間で経験しないと分からないので、薄っぺらい学習経験しなければ学習というのは個人の作業で人と関係ないし地域とも関係なくて私は忙しいからやっていませんという話になるのだけれど、そうではなくて貪欲な学習経験をたくさん増やしていくという、そこが非常に大事なテーマで、利用者が多いからいいというものでもないし、少ないからいいというものでもなくて、正にこれからがスタートで公民館もあり、図書館もあり、博物館、美術館もあり、スポーツ施設もあって大学もあってという、こんな豊かな学習環境はないわけで、その学習環境と市民とをつなぐ媒介者、つなぐ仕組みが必要だし、つなぐ時に学習というのは本当にもっともっと日常生活や地域と結びついた体験、経験をみんな学習と呼ぼうよという働きかけを強くしていくことで、自然に増えていくんじゃないかと感じていて、このアンケートで確かに重要度が低くて満足度が低いというんですけど、それはやっぱり今までのことなんだろうなと思っていて、これからはそうじゃなくて、そういう方向が今ここで出されてきていると感じました。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。他にみなさんから。

内田副委員長

もうひとつだけ言わせてください。棟方志功、これは高校生以下は無料なのでみんな行けばいいんじゃないですか。連れて行く、というカリキュラムを学校が組めばいいわけです。そこに行って棟方の大作を見たら感動します。心を揺さぶられる経験を、香美市のみんながしたら、これはものすごい学習で、家に帰って「お父さんお母さんこんなのあるよ」とみんな話し合っていて。そう思うと、なぜここに連れて行くカリキュラムを組めないんだろうと、単純にはそういうことなんです。やれてることじゃないですよ。強制ではないので。

私は社会教育という言葉、福田さんとも話していて、生涯学習っていうとどうしても個人の学習にどもなっていて、それは悪いことではないけれど、資格取得とかそういう世界に行きすぎてしまうのだけれど、社会教育というのは社会の人間関係や学習というものをどうやって質を高めて地域をつくるかという意味では、社会教育なんですよね。そこにこだわっているわけですが、生涯学習を支援する社会教育活動というのが公民館等なんだという理解をあらためてしたいと思いました。

宮地委員

ちょうど私が紙の研究所にいて和紙のこととか、これ・・・と言いますかね、こんにやくを塗ったりしっかり固めたりして、棟方志功の版画に使う紙ですね、紙のことも知ってますので、子どもさんがいくなら何でも案内できますので。



佐々木委員長

はい、皆さん、様々なご意見をありがとうございました。ある程度、方向性のようなものもできてきたと思います。残りの説明がまだ・・・

事務局

それでは、「よってたかって教育」活動推進アンケートの結果についてご説明申し上げます。みなさん、この会で「まちの先生」・・・ご報告させていただいている中で、なかなか数が伸びないという状況で、令和4年度にこの委員会の中でいただいたご意見を整理するために、関係者がもう一度集まって、各々の考え方をリセットする会をして、まちの先生候補としてターゲットにしていた市内の各小中学校の学校支援ボランティアの方々を対象に8月から9月にかけて実態も含めて、意向調査ということも含めまして、アンケートをとった結果がこちらです。実際にアンケートをお願いしたところ、集まった数は72名です。後ろに結論を書いています、数字を見ると、そもそも各小学校単位で登録したのが最初であるから他の学校、市内全域に広がってのボランティアに協力できるのは2割で、8割の方は協力できないと回答がありました。この計画を立てた当時は、ボランティア精神にあふれる人を「まちの先生」ということで目標の数値が立てられたと思いますが、・・・コロナも始まって、活動が衰退する中で、今一度この意向調査をすることでこういう調査結果になったということです。まちの先生に協力できるという回答があった方はたった4名で、非常に少ない数字となっております。ですから、最初の段階で、見通しができていなかったのではないかと、私が分析をしたということろです。まちの先生の関連については以上です。

佐々木委員長

定住推進課とまちの先生の関係はどうなっていますか。定住のほうでもまちの先生ってやってなかったですか。ものづくりの関係、そこはダブっていますか。ダブっていない。

永野委員

これを見せていただいて、一番残念なのは対象期間が夏休みから9月30日ですが、片地小学校は8人しかアンケートを出していないですね。片地小学校のボランティアは100人近くいます。そのうちの1割を満たしていない分での結果だからこれは違いますが、僕からするとこれは違うんじゃないかと思えます。後で報告させて頂こうと思っていますが、教育長と信崎所長に協力していただいて、小中の運営協議会の連携を進めさせていただいています。4月をもって5小1中の連携が出来ることになりました。みなさんと話し合いをさせていただいた結果、土佐山田地区として「あいさつができるまち」、どんなところに行っても、どんな人に会っても、子ども達に対してあいさつをしたり、みんながあいさつするのが当たり前だと。相手に思いをもってあいさつができるまちをつくっていったらどうでしょうかということだったのでそういったものを構築しようとしています。それに対し、地域の方はもちろんそう、保護者もそう、子どももそう、先生もみんな一緒になって、そういうまちをつくっていきましょう、って。それをどんどん広めていって香美市へ来たなら誰でもあいさつをする、それが当たり前と思えるまちにしていきませんか、とい

う構想を進めて順番にしています。その中に、協働本部のボランティアに入っている方にも協力してくださいと話をしているので、その方達のご意見をもっと聞かないと、申し訳ないが、・・・(このアンケートは) あまりにも数字が低すぎて、これがすべてです、というのはいちよっとうなのかなと思います。

佐々木委員長

ありがとうございます。これは中央公民館が主催で、

事務局

公民館はボランティアさんの名簿を持っていませんので、地域協働本部のコーディネーターさんが配布して下さっています。

佐々木委員長

その数がこれ・・・

事務局

撒いて帰ってきた数です。

永野委員

運営協議会にもアンケートが来ているという話は何もなかったですから。協働本部さんがやっているかもしれませんが、協働本部には本来の、推進員さんの地位の向上もしていないといけないんです。学校の中で推進員さんの地位というのは、今のところ各小学校によってずいぶん差がある。コーディネーターとしてその仕事を全うしてくれるところもあれば、学校へ行って学校で用事を聞いて丸付けをするというのもコーディネーターさんの役目になっている学校とか、いろいろあるんです。そこらへんもコーディネーターさんにお任せしますね、と言って渡してしまうと、しっかりやってくれるところとできないところがあります。だから本来なら学校長にでも言ってやるべきだと思います、もし学校へ配るのであれば。

事務局

校長会へは依頼しております。

永野委員

それなら学校長が、これをやるということに関して認識が薄いということですね。

事務局

いろんなアンケートが来るんです。ものすごい量のものが。特に夏は。校長会ではもちろんお伝えしましたが、なかなかばたばたしたんだなというところではあります。

#### 永野委員

期間にしても、随時にはなっていますが、ボランティアの方々はその時期に集中してくる人もいれば、時期を違えてくる人もいるので、もう少し長いスパンで見えて考えるのが本来の形だと思いますが。

#### 事務局

時期については、締め切っていますけど、永野さんが言われたようにボランティアさんの活動時期が決まっていますので、来次第・・・日を切ったのが9月30日だったということです。

#### 永野委員

それは、きっちり学校長にも重要なアンケートだから必ずやると伝わってないと、どこかの片隅におかれてしまうので、本来こういうアンケートをやるなら運営協議会の人に「やりますから協力してください」と言ってくれたほうが運営協議会の人間も地域コーディネーターの人間なので、地域で活動している人間が多いので。だから僕、一緒にボランティアしていますけど、一回もこれを書いていないです。だからそこはもうちょっと考えられたほうがいいと思います。

#### 福田委員

僕もこれは腹に落ちていないです。まちの先生募集の話じゃなかった気がしています。元々まちの先生は少ないという話は知っています。香長小学校の先生が、うちに他の学校のボランティアさんが来てくれないだろうかという話が出て、それならいっそ香美市のまちの先生として大きく登録してもらって、どこの学校の方でも行き来出来るようにできないだろうか、ということだったと思います。なんか、まちの先生というと、公民館のまちの先生のイメージしかなくて。それともう一つ。僕が前から言うように、何百人もいるという話をよく聞いていたので、それならもっと人はいるだろうという思いだったので、もうちょっと軽く考えていたのかもしれないが、本当なら親分がここにいるのだから親分に「こういうアンケートをするので校長先生に言ってくれないか」と言って親分が校長先生に言えばそれは校長先生もやってくれると思います。なんか、僕も拍子抜けでした。でもその原因がいまいちわかってないんです・・・理由ももちろんひとつとしてあるんだけど、もうちょっとなんだろうな・・・

#### 佐々木委員長

これはアンケートに答えてくれた方で、それでまちの先生になっていただく方を候補として選んでいくとか、そういう目的は・・・

#### 事務局

元々は、地域学校協働本部の活動を校区を超えてして下さる方はいませんか、ということと合わせて、まちの先生にもなりませんかとということと一緒に伺ったところがあるので、ちょっと目的がぼやけてしまった可能性があります。

他の校区で活動して下さる方を探し、いいよと言ってくださった方を香美市の本部でまとめて、誰かいませんかという時にご紹介ができるかなと思っていたのですが。

佐々木委員長

そこが足りなかった部分・・・

事務局

ぼやけた部分。

佐々木委員長

こんな会になると特にそうだが、なにもかにもってなってくるので、現場としてはこれというポイントを決めてやったほうが成果というか、こういうのは上がるかなと思います。

永野委員

もし、これをもう一回やるなら、校長先生に僕が言います。

事務局

校区を超えてとなると、やっぱり土佐山田町が一番活動して下さる方を募集したいと。

永野委員

いや、香北は香北でいます。OB 会があってしっかり活動しています。物部は物部で小学生や中学生がやっていることをしっかり見守って商店街としてやってくれている人がいるので、そんな方達って僕が話をしに行ったら普通に「片地へ行って手伝ってもいいよ」と言ってくれる人がたくさんいます。僕も片地小学校で「おせっかい」という OB を抱えています。その 9 名は「どこでも行っていい」「要望があれば行くよ」と。そういう人ばかりなので。だから僕はすごく疑問です。逆に、関わっている団体も僕は知っているので、その人たちに声をかければ何とでも話がつくのにと。福田先生がおっしゃったように「100 名くらいすぐできるんじゃないか」って。ただ「まちの先生」という敷居が高いんです、前から言うように。「よってたかって」の元々の話は、缶バッジか何かつけて子どもが「何しているの」と声をかけてきた時に「こうしている」と教えられる人を増やそうと。商店街に SOS みたいなのを貼っておけば、子どもがお金を落としたり困ったことがあった時にそこへ行って「助けて」と言えるようなまちづくりをするための「よってたかって教育」にしませんか、というのが僕が聞いていた話です。その中で、農業をする人なら缶バッジに稲穂のマークを入れるなどすれば、これは農業をしている人だ、打ち刃物をしている人なら刃物のマークを入れれば、それをしている人だと分かるように・・・あのイメージですよね。まちの先生になると、謝金をとってどうこうしないといけないとか、中央公民館を使わないといけないとか、そういう考え方になるから敷居が高くなるけど、そうではなくて、そこにいる、どこにでもいる、けれどその人たちはしっかり子どもたちや大人たちを見守って、何かあった時にはすぐ手伝える、手を貸してあげられる、聞かれたらすぐ答えてあげられる人をつくっていきましょうねという考え方なので、ちょっとニュアンスが

違うかなと。

事務局

よってたかって見守り隊みたいな（存在）・・・

福田委員

一番早いのは永野君の畑に看板立てて「何でも聞いて」と。それでいい。・・・「どうやって作る?」「こうやって作る」「ああ勉強になった」それでいい。

だから整理の仕方だけだと思うので。

事務局

全体へ網をかけるということ自体が厳しいのかなと。

福田委員

岡山まで視察に行きましたよね、確か前任者たちは。岡山へ行ったら、すごいシステムがあって、そこに全部登録していて、こんな先生がほしいと入力したら出てくるというシステムがあると。そういうのをここへつくろうよという話を2・3年前にしましたよね。

事務局

そこからもう一度復習してみます。

永野委員

清岡先生が行かれていて、岡山で各小中学校のボランティアの方々を市教委の担当の一つに集約をして、これと一緒に「私ならどこに行っても大丈夫」としていてくれたら、そこへコーディネーターさんが電話して「こういう人を探しています」という時に、「こういう人がいるから連絡先を教えるから打ち合わせをして」という形をつくって、ひとつのネットワークを構築していく。

まちの先生はその中で「お金をもらってでもやりたい」という人だけを抽出していったらいいね、という話でした。その人たち全員にまちの先生になってという話ではなかったです。

福田委員

作り込みをしていたでしょう。出てきた紙は個人情報と、それから許可を取っていない。それなら許可を取らないといけないね、それがこういう形になっているわけですよ。もう一つ何か工夫をしたら出来そうな気はします。

佐々木委員長

はい、ありがとうございます。宿題をいただきましたので、事務局はよろしくお願ひします。時間も過ぎましたので、最後に教育長からお願ひします。

## 事務局

本日は、貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございました。ぜひ活かしていきたいと考えております。内田先生がおっしゃったようにスポーツ施設からミュージアムもほとんど揃っているまちというのは、高知市以外で本市だけだということは自負しております、学校教育のカリキュラムの中に、必ず見学に行く日を入れておいて欲しいと、入れて下さいということを校長会でも通達をしておるところでございます。今後は、アンケートを見ても後押しを 5 回くらいしていかないとなかなか実現が難しいと思ったところです。

もう一点、つなぎ役の人が要るところの話ですが、来年度から生涯学習課に推進官という立場で、生涯学習と地域のすべての宝物とをつないでいく人材を二人、市長が構えてくれることになりましたので、その方々が非常に有能な方々に集まっていたけると、まだ決定はしておりませんのでここで披露できないのですが、というふうに確信しておりますので、その方々にその役割を担っていただけるものと思っております。そのことだけお知らせとお伝えをして。佐々木さん、ありがとうございました。すばらしい進行で私たちのぐちゃぐちゃを修正していただきありがとうございました。6

## 佐々木委員長

すみません、事務局を責めるようで申し訳ない。

では、よろしいですか。以上をもちまして、令和 4 年度第 3 回香美市社会教育委員会を終了したいと思います。皆さんどうもありがとうございました。

(閉会)